

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 1094 号	氏名	Dao Huy Manh
学位審査委員	主査	泉川 公一	
	副査	西田 教行	
	副査	安田 二郎	
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1. 研究目的の評価 本研究は、デングウイルス感染症に対するワクチン開発や病態解明のための安定的な <i>in vitro</i> モデルが存在しないことを背景に、人工多能性幹(iPS)細胞から誘導、分化された樹状細胞(iPS-ML-DC)を用いた <i>in vitro</i> モデルを作成し、その有用性を検討した研究であり、研究目的として十分に妥当である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 本研究では、iPS-ML-DC、その前駆体(iPS-ML)、ならびに、単球由来樹状細胞(moDC)を用い、<i>in vitro</i> にてデングウイルスを感染させ、感染効率及びサイトカイン産生を測定した。また、デングウイルス感染樹状細胞とナイーブ T 細胞を共培養し、樹状細胞の T 細胞活性化能も検討しており、研究手法は妥当である。</p> <p>3. 解析・考察の評価 解析の結果、デングウイルスは moDC 同様、iPS-ML-DC にも感染し、感染後の細胞は IFN-α2、TNF-α、IL-12p70 を産生することを明らかにした。感染効率は IFN-α の添加により、濃度依存的に減少した。また、デングウイルス感染 iPS-ML-DC と HLA が合致するナイーブ T 細胞を共培養した結果、IFN-γ⁺ CD69⁺ 活性化 T 細胞が誘導され、本細胞が抗原提示細胞としての機能を有することが確認された。本研究から、iPS-ML-DC は <i>in vitro</i> でのデングウイルス感染症の研究における樹状細胞の供給源として、moDC に代わる可能性を有することが証明された。</p> <p>以上のように本論文はデングウイルス感染症の病態解明やワクチン開発への進展に大きく寄与するものであり、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			